

生きいき憲法

日野原重明



歴史の中継 ランナー 子孫に手渡すバトンとは？

ジェームス三木
(脚本家・演出家)

手段として、目的ではないんです。あれが如何に有意義に楽しく人生を過ごせるか、これが目的です。手段が目的化する。世の中は危なくなっています。ところが私たちがどうしても手段に拘ってしまいます。目的は何なのかというところが時々わからなくなる。例えばアメリカという国は、「自由と民主主義を世界に広める」と言っている。それはとてもいいこと。しかしそのために手段として軍隊を使う、これはおかしいと思いませんか？ 軍隊ぐらい非民主的な組織はないのです。上官の命令で皆死ななければならぬ。多数決で突撃を決めるなんてことはありませぬ。非民主的な団体によって「自由と民主主義を世界に広める」。なんだかおかしい。日本も今いろんなことでござたござたしています。尖閣列島、「中国に対してもっと強腰でいかなきゃいかん」。北方領土、「ロシアに噛み付いてやらなきゃいかん」と言っている。ところが普天間問題はどうか？ アメリカに何にも言えない。アメリカの言いなりになっっている。なんだかおかしい。私たちが日本国憲法は世界に冠たるものです。憲法の中に目的が書かれていて、前文で「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意」

「恒久の平和を念願し、... 諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」。これが目的です。九条は手段が書いてある。戦争をしない。軍隊を持たない。はつきりしています。だがこれがない。日本がアメリカと合同軍事演習をやっている。なんか怪しい雰囲気が漂っています。私は今、目先のことをいろいろと首脳たちが語り合うよりも、百年後世界がどうなっているかということをちゃんと考えて欲しい。この国籍がない、そういう世界でありたい。そのから逆算して「何をどうすればよいか」、その「何をどうして」が書いてあるのが日本国憲法。これは世界の憲法と言つてよいと思

私たちが歴史の中継ランナーです。先祖が残した、われわれに与えてくれた命、知恵、あるいは文化遺産とか、そういうものを先祖からバトンタッチされて子孫に渡さなければならぬ。私たちがどんなバトンを子孫に渡そうとしているのか？ 環境破壊、核兵器などです。或いは大気汚染、それが、核兵器でもないバトン、汚れたバトンを子孫に渡そうとしている。こんなバトンを子孫は喜んで受け取ってくれるでしょうか？ 何と、喜んで受け取るバトンを子孫に渡さなければなりません。日本国憲法はそういう意味のバトンなんです。これを傷つけないまま、このバトンを落とさないように、汚さないようにして、何とか子孫に渡したいと私は強く思っています。

「東京・9条まつり」(11月13日) オープニングでのジェームス三木さんのスピーチからまとめさせていただきました。文責：高

発行 九条の会東京連絡会 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8松村ビル401 TEL 03-3518-4866

FAX 03-3518-4867 ホームページ www.9jo-tokyo.jp メールアドレス mail@9jo-tokyo.jp

ニュースのタイトル「生きいき憲法」は日野原重明さん(聖路加国際病院理事長)の命名・揮毫によるものです。

東京・9条まつり 「9条はオシたちの宝！」 「9条を世界に広げよう！」



ジェームス三木さん



高田 健さん



都丸哲也実行委員長

1階大ホール

オープニングは
ジェームス・三木
さんから

11時1階大ホールに勇壮な沖縄エイサーの太鼓が響き渡り、“東京・9条まつり”が開幕。和光青年会30人の若者のパフォーマンスでみるみる満席に。開会宣言は都丸哲也実行委員長、激励のメッセージは高田健さん、開会挨拶はジェームス三木さんでオープニングのセレモニーが終了。たくさんの企画に心は1つ、後ろ髪を引かれながらそれぞれ散っていった。

午後は落語あり、マジックあり、ベリーダンスあり

残された1階ホールの舞台は、お客がないのは困るが、居座られるのもいかかという場所。午後から元ラジオ司

【写真】和光青年会の
沖縄エイサー

会者の平尾桃子さんの司会で始まった。橘家扇三さんの落語「長屋の憲法談義」に爆笑、終わったあとの書籍販売には列ができた。うたごえ九条の会はスクリーンに映し出された歌詞で観客と合唱、あつという間の大満足の30分であった。奥田靖二さんは浅川金比羅大権現の宮司というが、マジックはプロ並み。ベリーダンスの音楽が始まるとあつという間に観客席はいっぱいにおなかを出して腰をくねらせる魅惑的な踊りに目がくぎづけ、太った女性のほうがよいのだとか。本職はピアニストの河野康弘さんはギターの弾き語り。大田年金者組合の皆さんは地元の民謡大森甚句のほか花笠音頭、貝殻節を披露。アシタマニアーナのメンバーによるコントは若者のセンス、うーんと考えさせる内容であった。とりは沖縄エイサーで締



落語の橘家扇三さん



アシタマニアーナのコント

めくくった。音響舞台回しは練馬から9人駆けつけ無事終えることができた。

(大柳武彦 記)

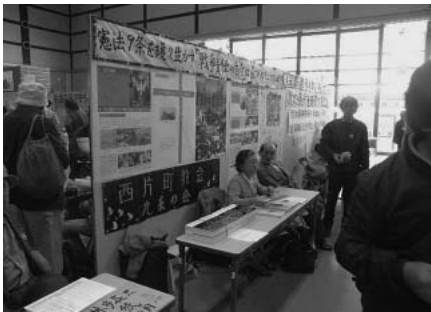
大展示場ブース

59団体 78ブースで 賑わう

70の募集に対して59団体、78ブース、大展示ホールは賑やかにたくさんの人で溢れました。地域や分野の9条の会が約半分、憲法、教育、科学、戦争、平和、学生、書店、演劇、旅行、土建など、様々な活動団体が集結！活動紹介や署名を呼びかける声、9条グッズや書籍、飲食の呼び声が飛び交う。会場に一步入るとおいしそうなおい…に誘われて休憩席では皆さん幸せな顔で食べたりおしゃべり

したり笑顔いっぱい。
親子広場では紙芝居に大人も子供も集まって。子供たちがカラフルなふわふわ積み木を重ねて崩して滑り落ちて、テントの中も行ったたり来たたり。海に山にたくさんの動物たちの塗り絵はきれいに完成。
どこと隣り合わせに、一番端に、などの希望に合わせて、え〜と、ここは電気と水道を使う、子供関係は広場の前に、え？間に通路を作りたい？締切過ぎても申込があり、何度も鉛筆なめなめあっちへこっちへとブースを配置するのはちょっと大変でした。
出店者の皆さんも、パネルの展示方法、ゴミ処理など、厳しい条件の中で大変だったと思います。ご協力ありがと

うございました。
2回のブース出店者会議を開き、全体像をつかみながら希望やルールなどを話し合ったおかげで、事務局とのやりとりだけでなく、お互いに、こうしたらどうだろうという意見交換がされ、みんなで盛り上げてガンバローというようなチーム感が生まれたように思います。
皆さん、さすがです。初めての経験の私は、静かで人も来なかったらと密かに案じていましたが、もう朝から、わ〜い！という気持ちで過ごしました。担当の皆さん、出店者の皆さん、ありがとうございました。
(川田マリ子 記)



西片町教会九条の会



西東京教育九条の会



大田・東矢口九条の会



中央区九条の会



親子広場



東京土建大田支部



どうぞお手にとって



東京土建狛江支部

AB会議室(1階)

- 沖縄と心をつないだ
三上キャスターの話
- 国民学校模擬授業
- 自由の森学園模擬授業
- 戦争体験を民話で語る
- 9条寄席に子どもから
高齢者まで…

11時40分=マスコミ九条の会の河野慎二さんの司会で開会。「辺野古に基地はいらない」琉球朝日放送キャスター・三上智恵さんのトークと三上さんが制作した『狙われた海』のDVD上映。沖縄県知事選挙の真ただ中、参



三上智恵さん

加者と心をつないだ時間となった。合間で飯塚明美さんら5人が沖縄の三線の演奏で心をなごませてくれた。

14時=国民学校一年生の会が模擬授業「国民学校初等科音楽・勝ち抜く僕等少国民」を上演。太平洋戦争下の教育を再現しつつ今日の教育に警鐘を鳴らす。続いて、自由の森学園・市民講座、社会科教員の菅間正道さんが授業し、ナチスのユダヤ人迫害の時代にタイムスリップして、世界を「他人ごと」から「自分ごと」にしようと考えさせる。

16時10分=いたばし民話の会・御園生松枝さんなど6人が、平和への願いを込めて戦争体験を民話で語った。



国民学校一年生の模擬授業



自由の森学園・市民講座



落語家・桂南なんさん

18時=九条寄席。座席は子どもから老人まで多彩。出囃にのってまず寝床家小道楽さんが子どもたちにもぴったりの囃『親の顔』。浅川金毘羅大権現・宮司の奥田靖二さんのマジックを楽しむ。次いで九条落語でお馴染みの寝床家道楽さんが『生き字引』。とりは桂南なん師匠が会場を沸かせたあと、『茶の湯』。楽しい一日を締めくくった。(高岡岑郷・記)

右は小展示場でのアート展



いたばし民話の会の御園生さん



落語家・寝床家道楽さん



落語家・寝床家小道楽さん



小展示場 (2階)

- ビック対談
ジェームス三木さん×
小森陽一さん
- 講演「東アジアと憲法9
条」：高橋哲哉さん
- 講演「安保条約と平和に
生きる権利」：山内敏弘
さん
- 特別スピーチ：日野原重明
さん

1 1時40分に開会した小展示ホールは、200名の会場に300人を超す参加者で溢れ、1日中興奮に包まれました。

1 ジェームス三木さんと小森陽一さんの対談は、明治維新で内戦内乱が終った後、日清戦争そして日露戦争と外国と戦争ができる一等国（大日本帝国）をめざしたのが明治の時代であったことを、二つの戦争の前後に生きた正岡子規と夏目漱石の友情を交えながら90分続きました。

漱石は日清戦争での徴兵を忌避するため本籍地を北海道に移転した、芭蕉は全国を回らないと俳句が作れなかったが、肺結核で病床の子規は庭だけ見て句を作った。漱石の名づけ親は子規。“柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺”は松山の漱石を訪ねた帰りに奈良に立ち寄った子規が法隆寺の前で柿を食べていたら偶々鐘が鳴ったので作ったもの。戦中に敵国の言葉（英語）を使うことが禁止されたが古川ロッパが「漢字はシナ語」と反論した等々。近代日本語の基本を作ったのは子規と漱石だが、今の漢字は横書きが多いため「旧中山道」の標識をアナウンサーがイチニチジュウヤマミチと読んだニュース。“秋



ビック対談するジェームス三木さんと小森陽一さん



高橋哲哉さん



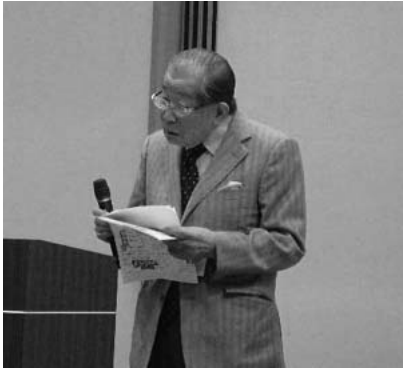
山内敏弘さん



刀魚の値段が鰻のぼり”の日本語はおかしい、“B4でコピーしてくれ”と頼んだら地下4階まで降りてコピーしてきた等々。教養豊かなお二人の対談に会場は爆笑の連続。しかし、最後に韓国併合100年の今年。愛国心が強くなると排他的・攻撃的になると、子規や漱石やモーツァルトの文化が今も生きてるように、対立がない文化をお互いに尊重しあう、文化を大事にする日常をもつ、それが戦争を防ぐ力となる、そこに9条の思想がある、以上をお2

人は訴えられました。

2 午後2時の高橋哲哉さんの講演「東アジアと9条」は、02年の小泉訪朝で北朝鮮が拉致を認めたことから脅威論が高まり9条は試練を迎えたが、尖閣列島で政府の弱腰外交を非難し軍事強化の空気が蔓延している今、「中国のようなヤクザ国家には核武装するしかない」（石原都知事）と9条は再び試練に立たされている。しかしアジアと自国民に対し惨禍を与えた痛恨の歴史から辿り着いたのが9条である。この近現代史を冷静に振り返ることが今大事である。以上を10月5日に韓国の連合ニュースが報じた記事（強制連行された朝鮮の人々が日本軍に集団虐殺された）、および朝鮮総督府が中国侵略の際に作った映像「銃後の朝鮮」のDVD放映等を通して



日野原重明さん

強調されました。また、戦前のジャーナリスト清沢渕の昭和20年元旦の「暗黒日記」を紹介され、当時の軍国主義を鋭く批判し、戦争の廃絶のために余生を捧げると誓ったその意思が9条に流れ込んでいるとも指摘されました。

3 午後3時30分の山内敏弘さんの講演「安保と平和に生きる権利」は、日本国憲法の平和主義の目的は人々の平和的生存権の保障であり、そのため日本は一切の戦争を放棄し、戦争の手段となる戦力を保持しないとしたが、安保改定50年の今日、安保条約が日本人の、そして世界の人々の平和に生きる権利を侵害してこなかったかどうかを改めて問われなければならない、と問題提起されました。そして、安保体制の下で日本はベトナム、アフガン、イラクでのアメリカの戦争に日本は安保の下に加担してきたこと、日本人も在日米軍による少女暴行、航空機事故と騒音、誤射等で平和的生存権を侵されていること、尖閣列島問題は安保や自衛隊に依拠することなく日本の立場を国際社会に積極的に訴えて平和的に解決していくべきこと、そして日米安保を軍事色のない日米平和友好条約に代え、アジア不戦条約や東北アジア非核地帯条約を締結するイニシアティブをとっていくこと、以上を

強調されました。最後に、議員定数削減を許すと社民党や共産党は壊滅状態となって民主党と自民党の二大政党制となり、この二大政党が改憲を合意すれば国会での改憲発議はきわめて容易となるから、改憲阻止のためにも定数削減を阻止することが是非とも必要と訴えられました。

4 午後4時45分の特別スピーチ「生きいき憲法」で日野原重明さんは、安保改定50年の今、日米合同軍事演習をしているが、これでは日本は核兵器を持っているのと同じ。どうすべきか。武器があ

る限り戦争はなくならないから人間の生命を奪う武器は持たない、命を奪う武器ではなく人間を育てることを大切にする、小学校で生命の授業を4年前から10日に1回の割合で行っているが人間をつくるのに金を使うべきだ、そして10年後に軍隊をなくそう。

1ヶ月前に99歳を迎えられたとは思えず、30分の予定を立ったまま1時間近くの熱弁でした。“前進しよう” “前進しよう”に溢れかえる参加者の全員がうなずきました。(島田修一 記)

特別会議室(3階)

映画：「加藤周一 幽霊と語る」

映画：「ハーツ・アンド・マインズーベトナム戦争の真実」

講演：「百年に一度の危機の中で憲法は輝く」

第1部で上映した「しかしそれだけではない。加藤周一 幽霊と語る」では、生前最後となったインタビュー、或いは青年層に期待を込めて訴えかける故・加藤氏の姿が映し出されました。上映中も続々と来場者は増え続け、上映終了後に行った桜井均氏(同作プロデューサー)の講演が始まる頃には定員80名を遥かに超えて立ち見となりました。

第2部「ハーツ・アンド・マインズ ベトナム戦争の真実」は今から36年前のサイゴン陥落直前に完成した勇気ある反戦映画で、現代の日本でも力強く観る人の心を打つ作品でした。但し、用意した入場整理券は瞬間にはけてしまい、多くの方にお詫びしなければならぬ状況でもありました。両作品とも既にDVD発売されており、機会があれば是非ご覧いただきたい秀作です。(梯 俊明 記)

杉原泰雄さん

(一橋大名誉教授)の講演

百年に一度の危機の中で憲法は輝く

日本国憲法と主権者・国民はこれまでも反憲法的・反国民的政治に脅かされてきたが、今、経済も財政も国民生活も危機に陥り、まさに「100年に1度」の危機に直面している。この危機は何によってもたらされたのか、したがって、それを克服するにはどのような政策が必要なのか。

今日の危機をもたらした要因は二つ。一つはアメリカと一体となった日米同盟の強化・軍拡政策。いま一つは例外なき自由化・小さな政府という市場原理主義の政策である。したがって打開の方向は軍事支出の抜本的な削減・第9条の具体化と社会国家(福祉国家)の実現以外にない。それはまさに日本国憲法の示す非戦・平和の道(第9条)であり、人間らしい生活を保障する道(第25条など)である。危機こそチャンス。主権者の意思表示と行動が強く求められている。

(文責・西東京市 森武郎)

コンベンション ホール

- 山崎勢津子とドラリーの会
- ピアノの崔善愛さん、チェロの三宅進さんの演奏
- 9条の歌合唱団
- 116名による合唱組曲『ぞうれっしゃがやってきた』
- 『大西進と金子みすゞの歌』
- 佐藤真子さんの弾き語り
- 伊勢崎賢司さんのジャズグループの演奏と蓮池透さん、まえきたみやこさんの鼎談

4階のコンベンションホールは、ただ広だけの「会議室」である。

それなりの演奏会場だろうと思ってこられた出演者のみなさんは戸惑ったに違いない。リハーサル時間もほとんどない。にもかかわらずこなしていただいた。感謝、感謝である。

会場の雰囲気をつくるには照明を工夫するしかない。慌ただしい看板設置作業の傍らで、会場の照明をつけてみたり消してみたり。舞台とピアノに（不十分だが）照明が当たるように努力してくれた会館の担当者には頭が下がる。しかし、本番の照明操作はやってくれない。映画人九条の会の深沢君がぶっつけ本番で操作してくれて大助かり。

客席に用意されていた椅子は200脚。不安なので40脚追加した。その分、予算オーバーしたはずである。それでも立ち見が出たのだから、まづは成功だったと言えよう。

最初の演目は、山崎勢津子とドラリーの会による朗読構成（花森安治の）『見よ ぼくら一銭五厘の旗』。「他の

会場に魅力ある企画があるので、どれだけのお客さんがきてくれるかと思っていたが、予想外の人数だったのがうれしい」と。

ピアノの崔善愛さん、チェロの三宅進さんの演奏になる。カザルスの『鳥の歌』は、カザルスが国連総会で演奏したことで有名である。そのとき、カザルスは「故郷カタルーニア地方の鳥は“ピース ピースと鳴く」といった。三宅さんの弦は、そのカザルスが使っていたものだという。

そして、9条の歌合唱団とつづく。

圧巻は、116名による合唱構成『ぞうれっしゃがやっ

が声を合わせるという悪条件を見事に良い方向に転換できたのは『ぞうれっしゃ』の曲の力と、私たちの思いをお客様みんなに伝えたいという気持ちの強さ、それをお客様が聞きとって応援してくださったからこそだと思います。

そして嬉しかったことは、大田を新たに加え4地区で練習を重ね本番を迎えられたこと、子どもたちの生き生きした歌声です。今回の成功を来年の『反核・平和の音楽祭』（7月18日、日比谷公会堂）につなげていきたい」。

『大西進と金子みすゞの歌』は、若くして逝った童謡詩人・金子みすゞの世界をじっくり

聴かせてくれた。

佐藤真子さんの弾き語りには、『反戦・平和を歌ったひばりに寄せて』。「アンコール！」の声があったが、時間の関係で応えられなかつ

たのを悔んでいる。

最後は、伊勢崎賢司さんのジャズグループの演奏と蓮池透さん、まえきたみやこさんの鼎談である。テーマは『ソフトボーダー』。尖閣問題の最中だけに「柔らかな国境」論は勉強になった。蓮池さんが、「尖閣ビデオがテレビ局に持ち込まれたらどうするんですかね」と問うていた。きっと（政権党におもねって）放送するなんて決断はできなかったにちがいない。

20時過ぎまでおつきあいいただいたみなさんに、あらためて「ありがとう」である。（会場進行担当 仲築間卓蔵、相川早苗 記）



【写真】合唱組曲「ぞうれっしゃがやってきた」を歌う人々

てきた』である。

指揮をした掛川陽子さんの感想は「100人をこえる大合唱で会場いっぱいのお客様に私たちの平和への思いをどけることができました。歌声も盛り上がり、エンディングでは“ワーイ”の歓声と会場の拍手、“ブラボー”の声が重なり、指揮する手を下ろしたくありませんでした。会場との一体感を全身で受け止めることができたステージでした。

ひな壇がない、反響板がない、会場とステージが横に長い、初めて本番で参加者全員

C 会議室 (6階)

- 「五日市憲法草案」
- 講演：米軍犯罪と憲法9条
- 講演：恵庭・長沼のたたかい
- 講演：軍事基地撤去の展望
- いっしょに考えよう
憲法の力で社会を変えよう！

民衆が130年前に創った“民主”憲法「五日市憲法草案」

五憲の会（あきる野9条の会、光が丘9条の会、東大和9条の会）

五日市憲法草案を学習してきた3つの会が「五日市憲法



草案を東京の宝に！」と共同企画した。開会までは案内をパワーポイントで流した。

最初に9月19日に行ったプレ企画の「再発見ツアー」のビデオを上映し、続いて「青春を駆け抜けた千葉卓三郎」と題した電子紙芝居を披露、専修大学新井勝紘教授が「多摩の在野から生まれた国家構想『五日市憲法草案』を読んで学ぶ」と題して講演(写真)。

草案を発見したときの様子、現憲法との類似性をあげながら、民主主義が貫かれた民衆の憲法草案であると語った。

会場は満席の盛況で、参加者は「民主的部分は現憲法と同じだとは驚きだ。草案をもっと広めたい」などと感想を述べていた。

(文責：あきる野9条の会 前田 眞敬)

D 会議室 (6階)

- 討論：連戦連勝！首都圏青年ユニオンが教える仕事トラブルの立ち向かい方
- 雨宮処凛が学生と語る「生きさせる思想」
- 高校生交流会「平和・学校・友だち」

6階D会議室では若い人たちの企画が3本持たれました。

11:40から首都圏青年ユニオンと笹山尚人弁護士による「連戦連勝！首都圏青年ユニオンが教える仕事トラブルの立ち向かい方」です。参加者は40人ほど。報告してくれた2人の青年労働者の吹っ切れたような前向きな姿勢がとても印象的で励まされました。

14:00から首都圏学生九条の会による「東京九条カレッジ・雨宮処凛が学生と語る『生きさせる思想』」(写真下)です。参加者は110人ほど。2人の学生が自分の経験をもとに貧困問題と九条運動について話し、それを受けて小森陽一さん、雨宮処凛さん、学生、聴衆

が活気あふれた討論を展開しました。

17:00からは高校生平和ゼミナールによる交流集会「平和、学校、友だち」です。参加者は25人ほど。高校生が車座になって、恋愛や友だちなど身近な問題から沖縄や安保など社会や平和の問題までリラックスして語り合いました。(平野 健・記)



首都圏青年ユニオン



雨宮処凛が学生と語る



高校生平和ゼミ交流集会

E 会議室 (6階)**○「杉並の原水禁運動
や戦争と平和の展示」**

会場6階のE会議室を使用して、つぎのような内容で展示をし、書籍紹介もしました。

- 杉並の原水禁運動の歴史
- 実物で見る戦争の遺品（檜山ミュージアム）
- 杉並の戦争と平和にまつわるマップ & 戦争に抗した杉並ゆかりの先人
- 日韓併合100年に関する資料
- 松本清張と杉並（清張直筆の絵を特別展示）
- 杉並の学童疎開
- 地域の歴史を掘りおこし記録し検証することの今日的意義

など壁面使用規制が多いなか、展



示には段ボールパネルを使用するなどの工夫をしました。杉並の平和運動にかかわるメンバーが、担当する展示の説明を行い、多数の来館者の方々からも感想や情報の提供をいただきました。短期間のとりくみでしたが、よかったと思います。

**F 会議室** (6階)**○「知っていますか？
東京から出た開拓団～
知る・観る・伝える～」**

私たち（東京の満蒙開拓団を知る会）は、6階F会議室を終日使って、東京の満蒙開拓団に関する資料展示を行いました。

東京都内の開拓団ゆかりの地の展示20枚を見て「自分たちの地域にこのような施設があったとは知らなかった」という声や「残留孤児裁判を支援してきたが、このような組織的な送り出しがあったことは知らなかった」などの感想が寄せられました。また、NHKが昨年夏に放映した「市民達の戦争 強いられた転業～東京・武蔵小山～」のDVD上映は何度も行われ多くの方が真剣に観ていました。

会では、今後も史実を発掘し、過去から学び、現在に活かしたいと思います。

（東京の満蒙開拓団を知る会
藤村妙子 記）

G 会議室 (6階)**○「旧登戸陸軍研究所
とは？」も盛況！**

やや都心から離れた大田産業プラザ、この広い会場に人が集まるだろうか。

私たち（旧登戸陸軍研究所とは？）の企画に与えられた部屋は、狭い三角部屋で6Fの一番奥、参加者が1Fから足を運んでくれるだろうか、当日までそんな心配がありました。

11月13日はそんな杞憂を一掃するかのよう、1Fから6Fまでイベントの各会場であふれた。会場への

呼び込みチラシ500枚も30分足らずで配布、その効果もあって渡辺先生の解説が熱をおびてくるにつれて参加者がふえて部屋一杯になり、入れず戻る人もでる盛況ぶりでした。

今回の「東京9条まつり」への参加は、多摩地区に残る、戦争の「負の遺産・旧陸軍登戸研究所」の存在を広く東京800余りの仲間に伝え、各「9条の会」が、歴史の散策や学習の場として明大の生田校舎内へ足を運んでもらいたい、という企画。

そして戦争の防諜・諜報・謀略・宣伝の一翼を担っていた「研究所」の実相を知り、若い人にも戦争の恐ろしさを引き継いでもらいたいと思っています。

（鶴谷 貢 記）

NPJが 東京・9条ま つりを世界に 発信

「9条まつり」をライブで流したNPJ (News for the People in Japan) のホームページで、東京9条まつりを特集しています。ぜひご覧ください。

<http://www.news-pj.net>

事務所移転のお知らせ

九条の会東京連絡会の事務所は12月16日に下記に移転しましたのでお知らせします。

〒101-0064

東京都千代田区猿樂町

1-4-8 松村ビル401

電話 03-3581-4866

FAX 03-3581-4867

東京・9条まつり 地域で、分野で……

西片町教会・九条の会

先の戦争加担の反省 にたったのとりくみ

日本基督教団は近隣諸国の人々に多大な苦難をもたらした先の戦争に加担する過ちを犯しました。

西片町教会はその罪を償う気持ちから、1975年以来韓国ソウルの基督教会と友好の修復に努めて来ました。

当時韓国は軍事政権下であり、民主化闘争の中心であった基督教会への弾圧は厳しく、日韓教会相互の対話はその苦節の中で続けられたのでした。

私達「西片町教会・九条の会」は今回の展示において、韓国教会とのこれまでの交流の歴史に加え、沖縄の基地問題に深い憂慮をアピールしました。

「九条まつり」には韓国側からも大きな関心が寄せられ、日韓両教会の合意にもとづき韓国の教会役員の方が態々来日して参加されました。

我国の平和憲法については韓国でもある程度知られていますが、一方に日米安保があり、自衛隊も存在することから、九条を護る運動の実情は余り知られていない様です。

民族分断と、その結果今も常に緊張の中にある韓国にとって「日本の非武装と、その証でもある九条の存在は大きいと実感した。他の展示も含め非常に感銘した」と感想を残して帰国されました。

私達は今回の催しの成功に満足する事なく、この運動を

持続させ発展させる決意を新たに致しました。

盛会裏に終ることができましたのも、偏に実行委員の方々はじめ多方面のボランティアの方々のご尽力の賜物と改めて感謝致します。

(西片町教会・九条の会、
まつり担当 記)

あきる野9条の会

大型バスで参加して
良かった。

「ほかの会はどんな活動をしているのだろう」「ブースで何か販売しよう」「五日市憲法草案を企画しよう」などと話し合い、東京の西のはずれから東の外れまでと遠いので「大勢行くのならバスで行こう」ということになった。五日市憲法草案が作られた130年前は材木を筏に組んで炭や絹織物などを秋川から多摩川を経て東京に運んだ。今回はその経路を45人乗りの大型バスでたどることになった。A9ニュースやチラシ、ホームページで宣伝を強め、近隣の日の出九条の会と福生市民九条の会にもバスでの同行を呼びかけた。一方で東大和と光が丘の九条の会とで五憲の会を結成し「五日市憲法草案を東京の宝に！」と自主企画を計画した。ブースも共同で3連出展することにした。

九条まつりと自主企画の成功のために、プレ企画「五日市憲法草案再発見ツアー」を9月19日に行い、都内から

の参加も得て30人が現地をめぐった。

当日のブース出展(写真)は、幅4m高さ90cmの大型パネルに再発見ツアーの写真と張作霖の署名入り写真(実物)を展示し好評を得た。

光が丘はお汁粉80杯を売り上げた。五日市名物の「おやき」も3個入り100パックを用意したが完売した。五日市憲法の冊子も53部販売できた。自主企画も満席になり五日市憲法草案のすばらしさを学ぶことができた。

バスで行ったのもよかった。満席にするよう頑張れたし、往きのバスでは事前に送ってもらったプログラムを説明し、



企画力のすごさにみんな驚き、どこに行こうかと話が弾んだ。

帰りは全員が感想を出し合った。見たり聞いたり思い思いの企画に参加できて「充実した一日だった」とにぎやかに語られた。他の会のメンバーとも知りあい、明日への活力につながる九条まつりであった。

(文責：前田眞敬) ♪



西東京教育9条の会大好評
伸ちゃんの三輪車

西東京教育9条の会は、2006年3月の結成以来これまで、「いま、憲法と教育を考える」と題した講演会、「戦争一見て、聞いて子どもにどう伝えるか」をテーマにした平和教育実践交流、3回にわたる戦跡めぐりのフィールドワーク、そして、今年の夏は「西東京市に投下された模擬原子爆弾を考えるつどい」を実施してきました。

東京・9条まつりにあたっては、よびかけに積極的にこたえ、早い段階でブース出店を決めました。今回の出店の内容は、フィールドワークで撮った写真で構成した「西東京の戦跡」「東京大空襲・浅草の戦跡」の2枚のパネルと「西東京に投下された模擬原子爆弾を考えるつどい」の報告者が作成・使用した資料パネルの展示。私たちの会のこれまでの主な取り組みを紹介したチラシの配布。「憲法9条は世界の宝」などの言葉の入ったしおり付き「西東京教育9条三輪車」の小物の製作・普及でした。三輪車の普及にあたっては、広島市の平和資料館に展示されている激しく焼けこげた「伸ちゃんの三輪車」の資料も掲示しました。

9条まつりの当日は、うれしいことに車輪の回転するカラフルな三輪車の針金細工が製作が間に合わないほどの売れ行きで、用意していった45台分がすべて完売してしまいました。「伸ちゃんの三輪車」のことについても関心があつまりました。童心社から「しんちゃんのさんりんしゃ」という題で絵本も出版されています。

(文責・小淵 章)

江北9条の会**9条バッチ普及と結んで東京9条まつりの宣伝**

はじめての経験で様子がわからないままに当日を迎えました。私が見ることができた催しが「象列車合唱団」と夜になっての蓮池透さんと伊勢崎賢治さん、まえきたみやこさんの対談でした。もっとみたい、聞きたいところがいっぱいありました。

江北9条の会のメンバーは、着いた途端、産直コーナーやブースめぐり。

ジェームス三木さんのオープニングからエイサーにくぎ付けになってかえってきませんでした。その後ほかのブースを回ったり2階、3階～6階へと目当てのところに行つたようですがどこも満員でおどろいていました。どうしても入りきれないメンバーは休憩所に戻ってたむろしていました。

毎月の実行委員会の案を聞きながら私は「少し欲張りすぎではないの？」と思っていました。本当に実行委員会の方々の取り組みには頭が下がりました。(私もメンバーの端くれだけ?)

足立区からは遠いけど素晴らしい会場だったと思いました。

江北9条の会はオリジナル9条バッチの注文が全国から来ます。丁度神奈川、静岡、岐阜県などの9条の会の方からの注文が来ました。その時、江北9条の会のニュースと、東京9条まつりのピラを同封しました。静岡の方は成功協力券を購入してくれました。岐阜の方は「私たちも今取組中ですが東京はさすがすごい内容が盛りだくさんでやるのがすごい」とFAXをくれ

ました。終わってみてなるほどすごい取り組みだったんだなと思いました。実行委員会の方々は素晴らしい経験と個性をお持ちの方がたくさんいてそれはそれは勉強になりました。本当に東京ならではのと思いました。運動はこれから続きますが「何としても9条守ろう」という一体感が生まれたと思います。私たちのブースの方もおかげさまで大好評、大喜びでした。

(江北9条の会 沢田朝子 記)

東大和9条の会**市内すべての掲示板にポスター貼るなど大宣伝**

2月ごろまでは、なかなかまつりのイメージが掴めず毎月の実行委員会もお客様の立場でいました。一方、自主企画で五日市憲法草案を取り上げてみるのも面白いと思ったのもこの頃です。丁度、あきる野9条の会前田氏と懇意にし始めたのと同じ時期です。

その後、光が丘9条の会でも五日市憲法草案に関心を持ち活動されていると知り、3者で一度集まろうと声をかけると気さくに応じていただきびっくりしました! 毎月1回の打合せを重ねながら、予定している講師に会ってみようと8月末に立川の焼き肉屋で会い東京・9条まつりの説明をし、9月には「五日市憲法草案再発見ツアー」を企画している事も紹介しました。新井氏は、大いに喜び講師依頼を改めて引き受けて下さいました!

9月に入ると、映画「いのちの山河」上映会(10月11日)、と東大和憲法まつり(11月28日)の取り組みが重なり、実行委員会にも参加できない状況が生まれ、あきる野9条の会の前田氏に殆ど下駄を預け

た格好と成りました。本当に申し訳なく思っています。それでも毎月の打合せは、きちんとやりました。

「五日市憲法を東京の宝に（略称、五憲の会）」の名前は1回目の集まりで決めたものです。

11月13日が近づくとつれ思いは複雑で、「具体的な準備は、前田氏にお願いしよう、映画と憲法まつりを成功させねば」の気持ちでやろうと腹を決めたのはプレ企画後でした。

その代わり、東京に9条の会がありお祭りをやると言うことを市民に知らせようとポスターを20枚、チラシ1000枚を取り寄せ、A4のチラシ30枚をA3に拡大（1枚80円）し、1枚60円のビニール袋に入れて市内全ての掲示板（28ヶ所）に貼りだしました。掲示期間は1ヶ月なので更新もしました。

そして、1000枚のチラシは最寄りの私鉄駅前の団地に配布しました。

東大和9条の会例会でも「憲法まつりの参考になるから」と3回にわたり参加を呼びかけましたが、映画と憲法まつりで、当日は5名の参加しかできませんでした。懇意にされているドイツ人を誘って参加された方もいますが、感想はまだ聞けずにあります。自主企画も期待以上に多くの人が参加して下さり「やって良かった」と3人は大変喜んでいました。講師の新井先生も「改めて、九条の会のパワーをあの会場で感じました。どんな方が私の講義をお聞きになったのかは、わかりませんでしたが、聴講者の感想はどうだったのでしょうか。」と感想を寄せて下さいました。「五憲の会」では、望年会をやりながら今後について話し合う予定です。

（東大和9条の会事務局長・鳥谷 靖 記）

東京9条まつり実行委員会 （最後）の記録

1 1月29日18時～20時、エデュカス東京地下会議室で「東京9条まつり」の最後の（第12回）実行委員会が開かれました。参加者は36人。まず最初に事務局から以下の3本の報告をしました。

1 報告1：総括にむけての問題提起

・「まつり」はとても盛況な催しとして大成功しました。具体的には、小学生から99歳まで幅広い出演者で様々な企画が催され、3000人を越す来場者があり、「一日ではもったいない」「元気がでた」などの感想が寄せられました。また特に事故やトラブルもなく無事に終了できたこともよかったです。

このような「まつり」を通して、戦争の歴史、平和の尊さ、人間を大事に豊かにすることが平和の礎であることなど参加者が様々な角度から見つめ直すことができたのではないかと思います。

・今回は最後の実行委員会なので、この「まつり」をどう総括するかを話し合いたいと思います。総括する上での評価基準としては以下のものがあると思います。①そもそも「まつり」をやることにした目標がどこまで達成できたのか、②準備の進め方や当日の運営の仕方はどうだったのか、③財政はどうだったのか。その総括の材料として、この後、アンケートについてと財政についての報告を別途します

・最後に、この「まつり」の記録をどのような形で残すかという問題があります。これについても積極的に提案してもらえたらと思います。

2 報告2：アンケートについて

・当日会場では54通のアンケート回答がありました。いずれも「まつり」についての熱い感想でいっぱいです。これを今、ワープロに起こしています。本日は要点だけピックアップした紙をお配りし、また現物を回覧しますので、総括の材料としてお読み下さい。

3 報告3：財政について

・財政はまだ最終確定ではありませんが、おおよその結果を報告すると、現在わずかの赤字という状態です。しかし、支出は多分これ以上増えないと思いますし、収入については「成功協力券」の未回収分がまだありますので、これと若干のカンパがあれば赤字を解消できると思います。大過なく済んだと言えると思います。

以上の報告を受けて自由に討論を行いました。以下、主な発言を紹介します。

・記録についてですが、各企画の主催団体から企画の意図・内容・感想などを書いてもらったらいいのではないかと。

・地元（大田）の参加動員を頑張りました。最初はどのような趣旨の催しなのか、意味がわからないまま参加しましたが、これだけの企画をやる中でいろいろな人や団体とつながりができた。これは今後の運動を広げる礎となると思います。そういう点が総括として大事だと思います。

・キリスト者ですが、韓国の教会からも参加者が1名ありました。「このような運動が日本にあることをぜひ韓国に

広めたい」と言ってくれました。記録は取り組んだ人の感想をまとめることも大事だと思う。そういう機会をつくってほしい。

・在日韓国人だが、日本では平和運動をする人の中でも差別が残っている。どういう運動をしていくのか、それが問われている。考えてほしい。

・今回の「まつり」は大成功だと思うが、それは企画力がすごかった。他方、800以上あると言われる東京の九条の会がはたしてどれぐらいつながれたのか、それが課題だと思う。多摩地域では運動を広げようとしても乗ってこない現実がある。今後この「まつり」をどんなペースで開くかわからないが、それを通じてどうつながりを広げるかが大事だ。

・全国の知り合いに今回の「まつり」のチラシを送ったら驚いていました。しかし、逆に欲張りすぎた企画だったとも言える。どこに行っても一杯で入りきれなくて、結局、食堂でたむろしている人も出た。そういう点は改善の余地がある。また今回は九条運動の交流の企画がなかったが、そういうものもあった方がいいと思う。

・今後どんなペースで続けるかだが、2年に1回は多すぎ

る。続かないと思う。5年に1回でもちゃんと継続することが大事だ。

・この「まつり」に参加するためにプレ企画もやったし、バスも貸切で行った。五日市憲法企画で他の地域とのつながりもできた。総合力を発揮できたと思う。帰りのバスで感想交流をしたが、みんな満足していた。

・土建は当日、警備の要員を出したが、その指揮系統が曖昧で、何をしたらいいのかよくわからなかった。

・私の地域ではチラシ1000枚をまいたが、参加者は5人にとどまった。しかし、五日市憲法の共同企画をやることで人と人とのつながりができた。これは宝物であり、これこそ本来、東京連絡会で目指したものだと思う。今後のペースについては、毎年は無理、2年に1回も無理だと思う。地域の会を育てているような見地で進めてほしい。

・私の地域でも取り組みが弱く、参加者は少なかったが、参加した元区長が感激して多額のカンパをくれました。

・私の地域からはワルシャワ大学の教授の女性（ポーランド人）が参加しました。

・感想文を読んでみるとこの「まつり」は目的に照らしても成功だったと思う。九条の

会のつながりについても土建を入れれば600近くいくのではないか。参加具合は地域によって様々だが、広がりを作りつつある。

・当日、NPJがインターネット中継をされていて、それを見て参加した人もいた。インターネットだからもう世界的に発信されたわけだ。それから東京には800以上の会があるのだから状況はいろいろある。今回積極的でなかった会にも今回の「まつり」の報告をきちんとし、成果を広げていくことが大事だろう。

・今回の「まつり」でものすごいエネルギーがこの東京にあることがはっきりした。人材も企画力も東京にはあるんだとわかった。それも組織的な締め付けがなくて自主的にこれだけのことができた。毎年でもいいと思うが、まあ2～3年に1回なのかな。

以上の討論の後、事務局が討論をまとめて総括文書を作成することを確認し、最後に都丸実行委員長が締めくくりに挨拶をしました。

(平野 健・記)



東京・9条まつり アンケートから

東京・9条まつりのアンケートは当日だけで54通集まりました。そのうちのいくつかをご紹介します。

◆全体の感想、意見について

○このイベントを通じて、日本における戦争と、また日本国が行った侵略の実態が多少わかった。イベント通じてふれたり、

見たりしたことにより、それ以上に知りたい、学びたいという気持ちになりました。

○参加して、すごく楽しかったです。しかも、勉強になりましたし、歌あり、トークあり、料理あり……。憲法9条による平和があつてこそ。このような企画ができると実感しました。企画から今日までお疲れさまでした。

◆東京連絡会への要望、意見

○私共の今後のイベントに今回知りえた人々・グループに今後

協力をお願いできるかもしれないと心強く思います。とても大きな収穫です。

◆九条の会運動について

○個々の地域での活動を充実させながら、さらに広がりをもって、運動を大きくしていきたいです。

○九条まつりを二年に一回ぐらいずつでもやってほしい。また、大田区等地域別にも取り組めるといいなと思った。

●メイン企画のひとつ
ジエームス三木さん×小森陽一さんビッグ対談



●いっぱいの人、ひと、人で熱気いっぱい



●かけつけられた日野原重明さんの話を真剣に聞く



●左：沖繩から、辺野古の実感を語る三上智恵さん
右：入りきれない人が溢れて



●九条うた声楽隊のギターに合せて、みんなで懐かしい歌を合唱



●親子広場で塗り絵を塗る子供たち



●プログラムやチラシ、ちばてつやさんの鉄兵がエイエイオー



●開会と開会を盛り上げてくれた沖繩エイサー。会場のみんも踊ったよ

●華やかなベリダンスに目がきつげ



●感動的だった小生たちの「ぞうれしやがやつてきた」



集まったヨ！その①
東京の「九条の会」
11月13日「東京・9条まつり」に3千人が集まった。講演、映像、音楽、展示などさまざまな角度から、憲法9条の大切さがつたえられた。人が途切れることなく、「一日ではもつたない」という感想をのこして：

●右：現代アート展
●左：雨宮処凛さん、学生と語る



●瀧池透さん、伊勢崎賢治さん
まえたみやこさん、ソフトボーダーを語る



●パネルいっぱい
「9条クッパ」を展示して



●大展示ホールに勢揃いした地域・分野の9条の会や団体のみなさん。楽しくおいしく賑やかに。